

「狂言」を鑑賞して

3年 ICA 組 女子

今回私は初めて狂言を見ることができて本当に勉強になりました。今まで文楽は2年生の時に見たのですが、狂言っておもしろいものなんだなと思いました。「日本の文化のもの」といわれると重苦しくて、あまり理解できないものというイメージが強かったのですが狂言のおかげで払拭されました。能と狂言の違いがあまり分からなかったのですが、丸石さんの解説でより分かりやすく理解でき、狂言にもたくさんの流派があることに日本文化の歴史の深さを感じました。その上、小道具が少なく場面転換がやりやすいことなど楽しみやすい喜劇だったのでとても興味深かったです。私自身、演劇部に所属しており文化祭などで演じるのですが、当たり前ですがその数十倍、数百倍大変だと思いました。実際に歩き方や石を投げる実技では、茂山さんの演技にとっても驚かされました。歩く時もあの姿勢で歩くなんで信じられません。意外にも体力がいるものなんですね。そして狂言を見るコーナーでは、ひとつひとつの演技に力が入っていてとてもかっこよく、声だけであんなにバリエーションがあるのはすごいなと思いました。そして何より見ていておもしろかったです。できればもう一度、狂言を見たいと思いました。

3年 ICA 組 女子

私は先日初めて狂言を鑑賞しました。文楽は以前に拝見する機会がありましたが狂言を鑑賞することがなかったので、今回授業の一環として鑑賞することが出来てよかったです。日本を代表する歌舞伎劇の一つであるのに狂言について私は詳しく知りませんでした。茶道などと同様に多様な流派があることに大変驚きました。又、能や狂言、人形浄瑠璃など知っているようで他人に説明することになったとすれば、上手く説明出来ないことも、今回の鑑賞と事前講座を通して学びを深めることができました。鑑賞前の詳しい説明や鑑賞するにあたっての狂言の味わい方、そして話を聞くだけでなく、私たち生徒も実践した狂言の基本動作である摺り足などをしたことで、本当に狂言鑑賞を楽しむことが出来ました。日本人として、国際文化を学ぶ者として、今回の鑑賞は大変貴重な経験となりました。

3年 ICB 組 女子

私は中学生の頃に狂言の「附子」を見ました。その時は狂言についてあまり知らなかったもので、単純にストーリーがおもしろかったという感想しかありませんでした。しかし、今回の狂言鑑賞では、ストーリーだけでなく狂言の歴史や特徴なども知ることができました。はじめに、狂言や歌舞伎、人形浄瑠璃などの古典文学の違いを教えてもらいました。今まで、古典文学は「昔のスタイルで劇を行っている」というイメージしかありませんでした。しかし、実際に話を聞くとそれぞれに特徴があることを知り、前回鑑賞した時と違う視線で楽しむことができました。また、今回は参加型で教えてもらえたことで一方的に受身で知るだけでなく、体を使って実感できたと思います。声の出し方や動作の細かいこだわりや特徴を知ることができて、狂言の難しさを身をもって感じられました。「柿山伏」の内容もおもしろく、狂言の世界観を楽しめました。今回の様な古典文学を観るだけでなく、体験する機会を得られて、日本文化に少しでも親しむことができて良かったです。